

提出日：2015年 12月7日

## KR15-18 クルーズサマリー

### 1. 航海情報

- 航海番号：KR15-18
- 船舶名：かいいい
- 航海名称：「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト：巨大地震発生域調査観測研究 採泥海域津波履歴研究」
- 首席研究者 金松敏也[海洋研究開発機構]
- 課題1代表研究者 [所属機関]：小平 秀一 [地震津波海域観測研究開発センター]
- 研究課題名：「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト：巨大地震発生域調査観測研究 4. 採泥海域津波履歴研究」
- 航海期間：平成27年11月17日（火）～11月29日（日）
- 出港地～帰港地：那覇～那覇
- 調査海域名：南西諸島
- 調査マップ 図1

### 2. 実施内容

#### ● 調査概要

本航海の目的は、文部科学省「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」の一環として、海底堆積物に記録されている南西諸島の巨大津波・巨大地震の再来周期を探るための試料採取であった。南西諸島の沈み込み帯では、過去の津波・地震の記録はあるものの、古文書等の情報が少なく、再来周期や津波破源域の場所など、南海トラフのそれに比べると圧倒的に不明な点が多く、その概要を明らかにする必要がある。今回の調査では、昨年度の調査YK15-01に引き続き石垣島南方の海域に焦点をあてた。荒天のため、6日間の荒天避泊を余儀なくされたが、石垣島の前弧海盆域で4点、海溝軸で1点、沖縄本島の前弧域で1点を実施できた（図1）。前弧海盆域のコアには、貝殻片やサンゴ片などの石灰質生物遺骸の破片を多く含む極粗粒砂～中粒砂の粒径をもったタービダイト、まれに細粒タービダイトが分布することが分かった。調査海域には詳細な地形データがないため、採泥地点選定のために地形・SBP調査を同時に進めた。

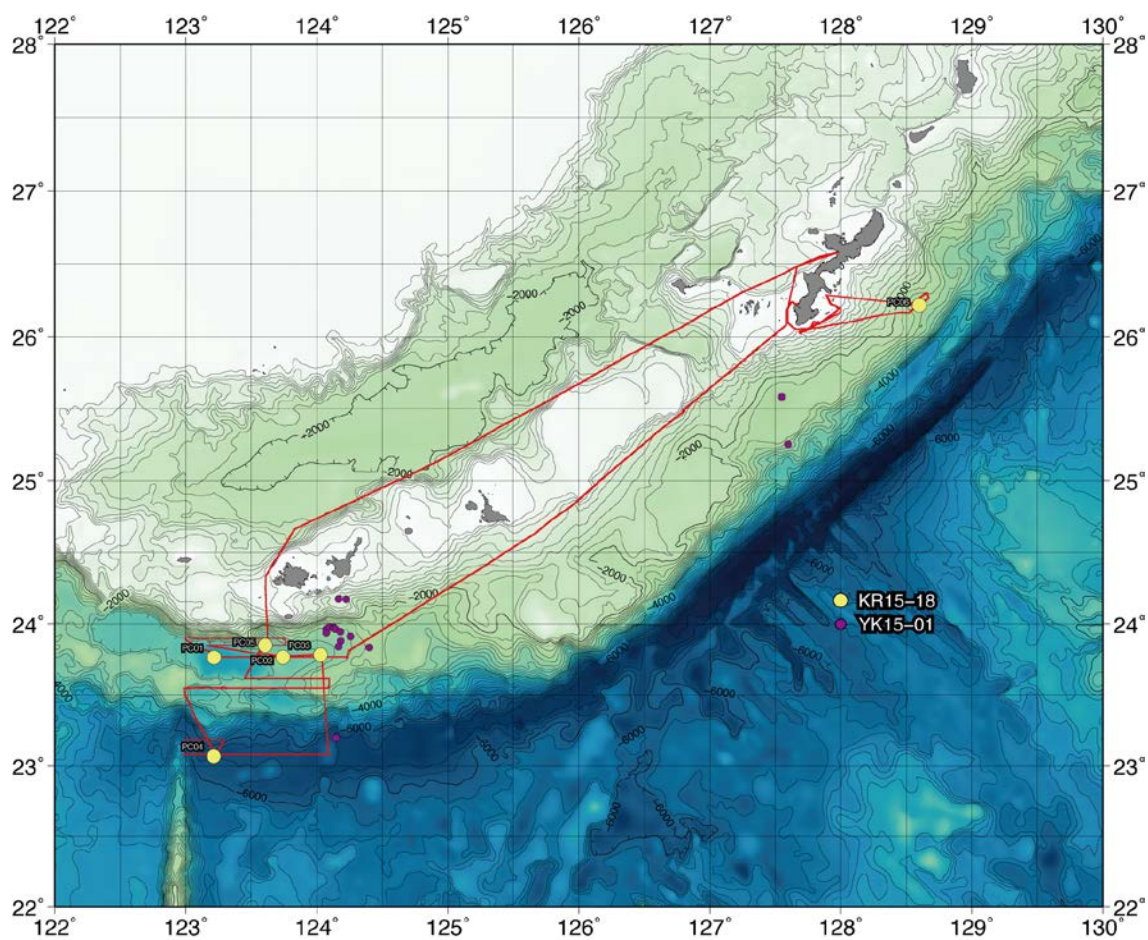


図1 : KR15-18 航海中 取得したコアの位置図 (黄色丸)。赤い線は航海中の航跡図。紫色丸は YK15-01 によるコア採取点。